

高島市新旭水鳥観察センター

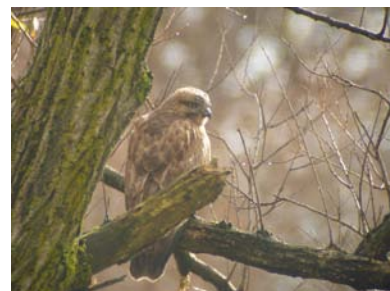
団体様向けプログラム集

新旭水鳥観察センターは、どなたでもお気軽に、
それぞれのスタイルで野鳥観察が楽しめる施設です。

当センターでは、授業やクラブ活動、愛好会やボランティア団体の方など、
クラスやグループで体験して頂ける様々なプログラムを用意しております。

ここでは、実施可能なプログラムの例を紹介させていただきます。
ご要望に合わせて内容の変更もできますので、お気軽にご相談ください。

- 1, 基本プログラム
- 2, 鳥の食生活
- 3, 耳で楽しむ野鳥観察
- 4, 鳥の生活をのぞいてみよう
- 5, 鳥の親子ウォッチング
- 6, ツバメのねぐら入り観察会
- 7, 夕方の野鳥観察会
- 8, 渡り鳥ウォッチング
- 9, カモウォッチング
- 10, 冬鳥観察を楽しもう!
- 11, 鳥の調査体験
- 12, 鳥の痕跡(こんせき)探し
- 13, 野鳥を絵に描こう
- 14, 鳥たちの「水辺」利用法



プログラム例1 基本プログラム

特定のテーマを定めずに行うプログラムです。鳥たちの色や形、様々な行動を楽しくウォッチング！

実施に適した時期 一年中

プログラムの流れ

- 1, スタッフが、今の季節観察できる鳥や観察ポイントなどを紹介する。
- 2, センター内から、フィールドスコープ（望遠鏡）や双眼鏡、自分の目を使って観察する。
- 3, (時間や天候次第で) センター周辺を歩いて、野外で鳥を観察する。
- 4, 自分が見た種類や仕草、感じたことなどを紹介しあう。
- 5, 学校周辺で鳥を観察するコツなどをスタッフが解説し、終了。

活動場所 水鳥センター内。時間や天候次第で周辺（屋外）も

適した時間帯 特に指定なし

対象となる主な鳥 全般

主な注意点 近づきすぎない、水の事故、時期によって寒さ対策・
タオルや飲み物の用意

使用機材 双眼鏡、フィールドスコープ



プログラム例2 鳥の食生活

自然界では、自分で食べ物を得なければ生きていけません。「食生活」に注目して鳥を観察します。

実施に適した時期 一年中

プログラムの流れ

- 1, 今の季節観察できる鳥をスタッフが紹介する。
- 2, くちばしの形などから、何を食べているのか、どうやって食べるのか、クイズ形式で考える。
- 3, センター内から観察。その後、可能であれば野外に出て観察する。
- 4, 自分の見た食事シーンを紹介し合う。(クイズの正解発表を兼ねて)
- 5, スタッフが、鳥と他の生物との食う・食われるの関係を解説し、「自然界における鳥の役割」などについて考えてもらう。

活動場所 水鳥センター内+周辺

適した時間帯 特に指定なし

対象となる主な鳥 全般

主な注意点 近づきすぎない、餌やりはご遠慮ください

使用機材 双眼鏡、フィールドスコープ



プログラム例3 耳で楽しむ野鳥観察

鳥たちは、種類や季節によって色々な声で鳴いています。耳を使って野鳥観察をしてみましょう。

実施に適した時期 一年中（特に春～初夏）

プログラムの流れ

- 1, スタッフが水鳥センター内でレクチャー（鳴き声の種類、聞き分け方など）。
- 2, 「バードボイスペン」を使い、代表的な鳥の声をいくつか聞いてみる。
- 3, 実際に野外に出て、声を聞きながら歩く。
- 4, 聞こえてきたら、解説やクイズによって、「どこにいるか」「なぜ見つけにくい所にいるのか」などを考える。
- 5, “草ボーボー”な環境が必要な鳥もいること、様々な声を使ってコミュニケーションしていることなど、「自然保全」や「鳥の生態」の面からまとめる。

活動場所 水鳥センター内+周辺

適した時間帯 午前中が望ましい

対象となる主な鳥 全般、特にスズメ目の小鳥たち

主な注意点 足音、話し声は控えめに

使用機材 双眼鏡、（フィールドスコープ、バードボイスペン）



プログラム例4 鳥たちの生活をのぞいてみよう

身近な鳥をじっくり観察することで、私たちの周りで彼らがどんな生活をしているのか、「隣人」の実態を知る。

実施に適した時期 一年中

プログラムの流れ

- 1, スタッフが、今の季節見られる鳥や行動を紹介する。
- 2, 特に注目したい数種類の野鳥と、その観察ポイントも紹介。
- 3, 室内や野外で「彼ら」を捜し、見つけたらしばらく観察を続けよう。
- 4, 何をしているか、どこでどんなものを食べているか、他の鳥との関係、などに注目。
- 5, 観察できたこと、気づいたことを紹介し合う。まとめをして解散。

活動場所 水鳥センター内+周辺

適した時間帯 特に指定なし

対象となる主な鳥 水陸の留鳥、夏鳥（特に限定せず）

主な注意点 水の事故、時期によって寒さ対策・
タオルや飲み物の用意

使用機材 双眼鏡、フィールドスコープ



その他 「カラス」「カイツブリ」など、特定の鳥に絞った観察も可能です。

プログラム例5 鳥の親子ウォッチング

懸命な親鳥の子育て、元気いっぱいな幼鳥が見られるだけでなく、自然の厳しさも知ることができます。

実施に適した時期 初夏～夏

プログラムの流れ

- 1, スタッフが、鳥の親・子の見分け方を紹介。
- 2, 今の季節、あちこちで鳥が子育てしていることや、幼鳥が直面する試練なども解説。
- 3, 室内からカイツブリやスズメの親子を探す。その後外に出て、鳥の親子を探して歩き観察する。
- 4, どんな場面が見られたか、感想などを紹介し合う。
- 5, 身近で親子を観察するコツや、「なぜヒナを拾ってはいけないのか」などをスタッフが紹介し、解散。

活動場所 水鳥センター周辺（可能であれば室内からも）

適した時間帯 特に指定なし

対象となる主な鳥 スズメ、カイツブリなど、幼鳥も見られそうな鳥

主な注意点 子育て中の親は神経質なので、近づきすぎないこと

使用機材 双眼鏡、フィールドスコープ



その他

親子が見つからない場合は、巣立ちヒナや「鳥のオスとメス」に注目して観察します。

プログラム例6 ツバメのねぐら入り観察会

意外と知らない、鳥達の夕方の過ごし方。数千羽が大集合し、飛び回り、眠りにつく様子を観察します。

実施に適した時期 7～8月中旬

プログラムの流れ

- 1, スタッフが、ツバメの日本での生活ぶりを紹介する。
- 2, まずは水鳥センター内から、浮島に集まってくるサギの集団を観察する。
- 3, 現地へ車で移動し、他の鳥も観察しながらツバメが集まるのを待つ。
- 4, ツバメが集結し、飛び回り、やがてヨシにとまっていく様子を観察する。
- 5, センターへ戻り、まとめをして解散。

活動場所 針江浜方面の湖周道路沿い

適した時間帯 夕刻～日没後1時間弱

対象となる主な鳥 ツバメ、スズメ、サギ類

主な注意点 懐中電灯、虫よけを念のため。椅子や敷物も。

使用機材 双眼鏡、(フィールドスコープ)



その他

サギ類、タカ類、スズメなど、他の野鳥も観察できます。駐車場のスペースに限りあり。

プログラム例7 夕方の野鳥観察会

涼しくなった夕方に野外を歩いて、まだエサを探している鳥やねぐらへ向かう鳥を観察します。

実施に適した時期 冬以外

プログラムの流れ

- 1, 今の季節に、冬と比べて鳥が少ない理由を考えてみる。
- 2, 今の季節見られる鳥や、鳥たちは夕方向をしているかを、スタッフがレクチャー。
- 3, 外に出て、センター周辺を歩いて観察する。
- 4, センターへ戻り、感想・気づいたことを紹介し合う。また、夜はどこで過ごしているかを推理する。
- 5, まとめをして解散。

活動場所 水鳥センター周辺

適した時間帯 16:00 頃～日没前後

対象となる主な鳥 水陸の留鳥、夏鳥（特に限定せず）

主な注意点 タオルや飲み物の用意、水の事故

使用機材 双眼鏡、（フィールドスコープ）



その他

夕方同様に涼しい、朝方でも実施可能です。

プログラム例8 渡り鳥ウォッチング

日本列島、そしてその中の高島市を大移動の鳥たちを観察します。

実施に適した時期 春～初夏、秋の前半

プログラムの流れ

- 1, スタッフが鳥の渡りについて説明する。高島にいない時期はどこで何をしているか考えてみる。
- 2, 今の季節に見られる渡り鳥の種類、生息場所などについても解説。
- 3, 木津浜まで歩きながら野外観察。（どんな場所や環境で、何をしているか？などに注目）
- 4, 越冬地あるいは繁殖地、中継地がなぜ必要なのか考えてみる。
- 5, まとめをして解散。（季節ごとの見所を紹介する）

活動場所 水鳥センター内+周辺（時間・天候次第では室内のみで実施）

適した時間帯 小鳥類は午前中が望ましい。水鳥は特に指定なし

対象となる主な鳥 春・初夏はツバメやヒタキなどの夏鳥、秋～春はカモや小鳥などの冬鳥

主な注意点 水の事故、時期によって寒さ対策・タオルや飲み物の用意

使用機材 双眼鏡、フィールドスコープ



その他

渡り鳥が見つからない場合は、留鳥を中心に観察します。

プログラム例9 カモウオッチング

種類が多く、行動も観やすいカモ類は格好の観察対象です。

実施に適した時期 10月～4月

プログラムの流れ

- 1, スタッフから、カモの生態、観察ポイントなどのレクチャー。
- 2, 室内から観察。「どんなカモがいるか」だけでなく、利用環境や行動などに注目します。
- 3, 木津浜まで歩きながら野外観察。(時間がなければ省略)
- 4, 見られた種類、行動などを振り返る。カモによって食べ方、行動などに違いがあったか、など。
- 5, まとめをして解散。

活動場所 水鳥センター内、琵琶湖湖岸

適した時間帯 特に指定なし(ただし、その時々で見られる種類、数は変わります。)

対象となる主な鳥 カモ、その他浮かんでいる鳥

主な注意点 寒さ対策、水の事故

使用機材 スライド、双眼鏡、フィールドスコープ



その他

「野鳥を絵に描こう」と合わせて実施することもできます。

プログラム例10 冬鳥観察を楽しもう!

カモ、猛禽、小鳥… 冬の琵琶湖に生きる多種多様な鳥たちを、思う存分観察しよう!

実施に適した時期 11月～3月

プログラムの流れ

- 1, 冬鳥の生態、観察ポイントなどをスタッフがレクチャー。
- 2, 室内から観察。種類だけでなく、利用環境や行動などにも注目します。
- 3, 木津浜まで歩きながら野外観察。(時間がなければ省略)
- 4, 見られた種類、行動などについて振り返る。
- 5, まとめをして解散。

活動場所 水鳥センター内+周辺

適した時間帯 特に指定なし(ただし、その時々で見られる種類、数は変わります。)

対象となる主な鳥 全般(特にカモ類、カイツブリなど)

主な注意点 寒さ対策、水の事故

使用機材 双眼鏡、フィールドスコープ



プログラム例 1 1 鳥の調査体験

実際に行われている鳥類調査を体験してみる。調査はなぜ必要なのかを考える。

実施に適した時期 一年中

プログラムの流れ

- 1, 実際に行われている調査のやり方、注意点などをスタッフが説明する。
- 2, 今回体験する調査の方法や、今見られそうな種類をレクチャー。
- 3, グループ、または個人個人に分かれて、実際に調査をやってみる。
- 4, どんな鳥が多かった、どこに多かったなど、気づいたことを紹介しあう。
- 5, 調査の意義、継続して行うことの大切さ、誰でも調査に参加できることをスタッフが紹介する。

活動場所 水鳥センター内+周辺

適した時間帯 午前中が望ましい

対象となる主な鳥 全般

主な注意点 水の事故、時期によって寒さ対策・タオルや飲み物の用意

使用機材 双眼鏡、画板、(フィールドスコープ)



その他

鳥が分からなくても大丈夫。「水鳥のみ」「カモのみ」など、鳥のグループを限定しての実施も可能です。

プログラム例 1 2 鳥の痕跡 (こんせき) 探し

鳥がその場になくても、そこで生活している証拠は残る。自然派推理体験。

実施に適した時期 足跡は積雪があると見つけやすい

プログラムの流れ

- 1, どのような「痕跡」を探せるか、水鳥センター内でレクチャー。
- 2, 実際にセンター周辺を歩いて、足跡や羽根などを探す。
- 3, 見つけた痕跡の主は誰なのか、何をしていたのかなどを推理しあう (または、各々が推理した結果を紹介する)。
- 4, まとめをして解散。

活動場所 水鳥センター周辺

適した時間帯 特に指定なし

主な注意点 時期によって寒さ対策・タオルや飲み物の用意

使用機材 双眼鏡、定規やメジャー、カメラ、ジップロックなどの袋



その他

必ずしも痕跡が見つかるとは限らないため、状況次第で野鳥観察も行います。

プログラム例13 野鳥を絵に描こう

特徴を捉えた絵を描くためには「観察」が大事。鳥を絵にすることを通じて、体の形や動きを詳しく観察できます。

実施に適した時期 冬など、鳥の多い時期がベター

プログラムの流れ

- 1, スコープなどで観察して、お気に入りの鳥を見つける。
- 2, スタッフが、鳥の絵を描く時のポイントを解説。
- 3, 絵が苦手な人は、鳥の輪郭があらかじめ描いてある用紙を使うのもよい。(センターで用意)
- 4, 実際に描いてみる!
- 5, 気づいたこと、気に入ったポイントなどを紹介しあう。

活動場所 水鳥センター内 (+周辺)

適した時間帯 特に指定なし

対象となる主な鳥 カモ、カイツブリなど長い時間見られる鳥

主な注意点 寒さ対策 (基本的に室内で実施します。)

使用機材 双眼鏡、フィールドスコープ、絵を描く鉛筆など



その他

よく観察するのが目的なので、上手い下手は関係ありません。じっくり観て、のびのび描きましょう。

プログラム例14 鳥たちの「水辺」利用法

琵琶湖の湖面や岸辺を、鳥たちはどのように利用しているのか。水辺環境はなぜ必要なのか。

実施に適した時期 一年中

プログラムの流れ

- 1, 今の季節見られる水鳥や、観察ポイントをスタッフが紹介。
- 2, 観察シートも使いながら、水辺を利用している鳥の種類や、どのように使っているかを観察する。
- 3, 自分の見つけた鳥が、水辺で何をしていたかを紹介しあう。
- 4, どんな鳥にとってどんな水辺環境が必要なのか、その環境を守るためにはどうしたらいいか、などを考えてみる。

活動場所 水鳥センター内、琵琶湖湖岸

適した時間帯 特に指定なし

対象となる主な鳥 水鳥全般

主な注意点 水の事故、時期によって寒さ対策・タオルや飲み物の用意

使用機材 双眼鏡、フィールドスコープ



※水鳥センターで用意できるもの

- ・フィールドスコープ（望遠鏡） 卓上型 1 1 台、持ち運び型 1 ～3 台
- ・双眼鏡 最大 3 台
- ・野鳥図鑑 1 0 冊弱
- ・スライド設備 席数は 3 0 席。多少の増席可能です。
- ・消耗品は原則として水鳥センターで用意します。ただし鉛筆、色鉛筆、メモ帳などの筆記具はご持参下さい。

※ご利用にあたってのお願い

- ・当センターで用意できる望遠鏡や図鑑などの数が限られています。各学校・団体様の備品をご確認いただき、お持ちであれば持参をお願いいたします。
- ・同じフロアにカフェを併設しておりますが、カフェ利用客の方々への特段の配慮は必要ありません。一般の公共学習施設と同様に、積極的にご利用下さい。（カフェコーナー内への立入はご遠慮ください。）

※利用料金

- ・通常 200 円 （中学生までの方は無料となります）
- ・高島市内の学校によるご利用（クラブ活動含む）は全額無料です。ご引率の教職員の方、保護者様も無料となります。

※お申込みについて

予約方法

- ・電話または直接センターにて、利用日の予約をお願いします。
- ・その際、望遠鏡や双眼鏡の有無（お持ちであれば台数）をお知らせください。
- ・駐車場の確保などのため、利用される予定の交通機関もお伝えください。

団体利用申込書

- ・FAX またはメールでお届けしますので、ご記入をお願いします。センターでご予約された場合は直接お渡しします。
- ・当日ご記入いただいても結構です。

※連絡先、問い合わせ先

高島市新旭水鳥観察センター
10:00～17:00、火曜日は休館

〒520-1531 滋賀県高島市新旭町饗庭 1600-1

電話・FAX： 0740-25-5803

E-mail： mizudori@okubiwako.net

ホームページ： <http://okubiwako.net/mizudori>